

脳の働きに障害があっても、その人らしく生活するには
～本人や周りができること～

日時：2021年11月27日(土) 14:00～

場所：オクタホール (P棟)

講師：兵庫医療大学 リハビリテーション学部

講師 清水 大輔

参加費
無料

[受付] 13:30～

[講演] 14:00～15:30

[健康相談窓口] 15:30～17:00

※講演テーマ・リハビリについてのご相談をお受けいたします。

事前申込制

脳卒中（脳梗塞や脳出血など）の後遺症には、身体の麻痺だけでなく、何かに「集中すること」、や「覚える（思い出す）」、「考える」などの症状が併発することがあります。これらの症状は、「高次脳機能障害（認知機能障害）」と呼ばれています。今回の講座は、高次脳機能障害の症状について、知ってもらいたいと考えています。また、高次脳機能障害があっても、ご自身やご家族が生活の中でできることをご紹介します。

お申し込み お電話・FAX・メールで下記までお申し込みください。

〒650-8530神戸市中央区港島1-3-6

兵庫医療大学（地域連携担当）

TEL：078-304-3111 FAX：078-304-2713

メール chi-ki@ml.huhs.ac.jp

*参加証は発行いたしません。当日直接会場にお越しください。

*車でお越しの方は、駐車場の数に制限がありますので事前にご連絡ください。

*兵庫医療大学へのアクセス

ポートライナー「三宮」駅より「みなとじま」駅下車西へ徒歩約10分

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、検温・手指消毒のお願いをしております。

検温の結果によっては参加をお断りする場合があります。

※座席指定とさせていただきます。

※新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、本講演を中止あるいはオンラインで行う代替企画に変更する場合があります。





兵庫医療大学 リハビリテーション学部
講師 清水 大輔

超高齢社会の真ただ中になる我が国において、認知症に対する関わり方や予防策などは、行政だけでなく民間でも多くの場所で見聞きする機会があることと思います。同様に、脳卒中の後遺症には、身体の麻痺が生じることはよく知られています。しかしながら、脳卒中の後遺症には、身体の麻痺以外に、「何かに集中できず、失敗が多くなる」、「何かを覚えたり、思い出すことが難しくなる」などの症状があることは、同じように多くの方々には知られていないのではないのでしょうか。

これらの症状は、脳の働きに障害が生じた結果として現れますので、「高次脳機能障害（認知機能障害）」と言われていています。高次脳機能障害は、「目に見えにくい障害」とも言われており、病院の入院時よりも、退院後の社会生活を送る中で困ることが多いです。そのため、ご本人だけでなく、周囲の人たちも含めて、この症状の対応策（関わり方）を考えていくことが大切です。高次脳機能障害の改善策は、現在の医療の範囲内では特効薬となるものはありません。今回の講座は、高次脳機能障害の症状について、知ってもらえる機会にし、この症状がある方々やご家族が生活の中でできる工夫などを考えるきっかけにして頂ければ幸いです。

●次回公開講座予定● 2021年12月11日 看護学部 担当

ポアイ4大学による連携事業

11月27日 公開講座

脳の働きに障害があっても、その人らしく生活するには
～本人や周りができること～

参加申込用紙

| | | |
|---------|-----|---------------|
| ふりがな | | 性別 |
| お名前 | | 男性 ・ 女性 |
| 連絡先電話番号 | () | |

(FAX送信先 078-304-2713)